

健康通信

あなたは「がん検診」を受けてますか？

～早期発見・早期治療、胃がん・大腸がん検診のすすめ～



消化器内科 部長医師

小原 圭

日本は世界の中でも高度で先進的ながん治療が確立されている一方で、残念ながらがん検診受診率は30～40%台であり、欧米と比べて非常に低いのが現状です。がんは長年日本人の死因第1位を占めており、また生涯に2人に1人はがんにかかると言われており、決して珍しい病気ではなく他人事ではないと自覚することが大切です。

一般的に早期がんと呼ばれる病初期にはほとんど自覚症状はないことが多く、かかりつけ医に定期

通院されている方でもふだんの血液検査や診察だけでは早期がんの発見は困難です。また通常の定期検診では血圧や糖尿病など生活習慣病のチェックのみであることも多く、がん検診の項目についての確認が必要です。

厚生労働省では、有効性が科学的に証明されている胃がん・大腸がん・肺がん・子宮頸がん・乳がんの5つのがん検診をすすめています。『男女とも40歳以上の方は年に1回のがん検診を受けること』

がすすめられており、特に60歳以上の方は必ず受診が必要です。胃がん検診は現在、胃X線検査（バリウム造影）に加え胃内視鏡検査（胃力メラ検査）も選択が可能です。また大腸がん検診は一次検診として便潜血検査がすすめられており簡便に検査ができます。

小牧市では住民の方を対象としてがん検診を実施しており、対象の市内医療機関・クリニックなど（または集団検診）にて検査が可能ですので、ぜひ利用して下さい。（詳細は小牧市ホームページを参照。問い合わせ先は保健センター ☎75・6471まで）

当院では以前より早期胃がん・大腸がんなどに対する内視鏡治療



を積極的に行っています。また従来の内視鏡治療では一括切除が困難な早期がんの一部（粘膜内がん）に対して、ESD治療（内視鏡的粘膜下層剥離術）を導入しており多くの方へ施行しています。（2017年には胃・大腸含め100例以上）。ESDの方法としては病変の下部（粘膜下層）に薬液を注入し盛り上げた状態で、高周波電流を利用した電気メスを用いて周囲を浅く切開し、さらに下部を丁寧に切りすすめ剥離・切除していきます。ESDは外科手術と比べ体への負担が大幅に少なくQOL（生活の質）を保ち臓器機能も温存され、より安全かつ短期間（約1週間程度）での入院治療が可能です。胃・大腸がん検診にて病気が指摘された方は、かかりつけ医の先生に相談してみてください。

定期的ながん検診を受けることで安心して過ごすことができます。また早期に発見し、早期に適切な治療を受けることで、「がんは治せる病気」になっています。ご家族やご両親など、あなたにとっての「大切な人」にぜひがん検診をすすめてみませんか。